



広島大学



島根大学

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

令和5年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）

**広島大学・島根大学共同事業**

**「地方大学における理工系の女性研究者が  
働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための調査分析」**

**令和6年度総括シンポジウム「提言書の実現に向けて」**

**事業概要報告**

---

**島根大学副学長（SDGs・ダイバーシティ担当） 河野 美江**

# 1. 連携機関のこれまでの取組

## ● 広島大学男女共同参画宣言（H18）

- 女性研究活動委員会、男女共同参画推進室等設置
- ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）等による積極展開
- 第3期中期目標・計画の目標「女性教員及び女性管理職の割合を各20%程度に増加させる」を達成
- ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置

## ● 島根大学男女共同参画基本理念・基本方針設定（H18）

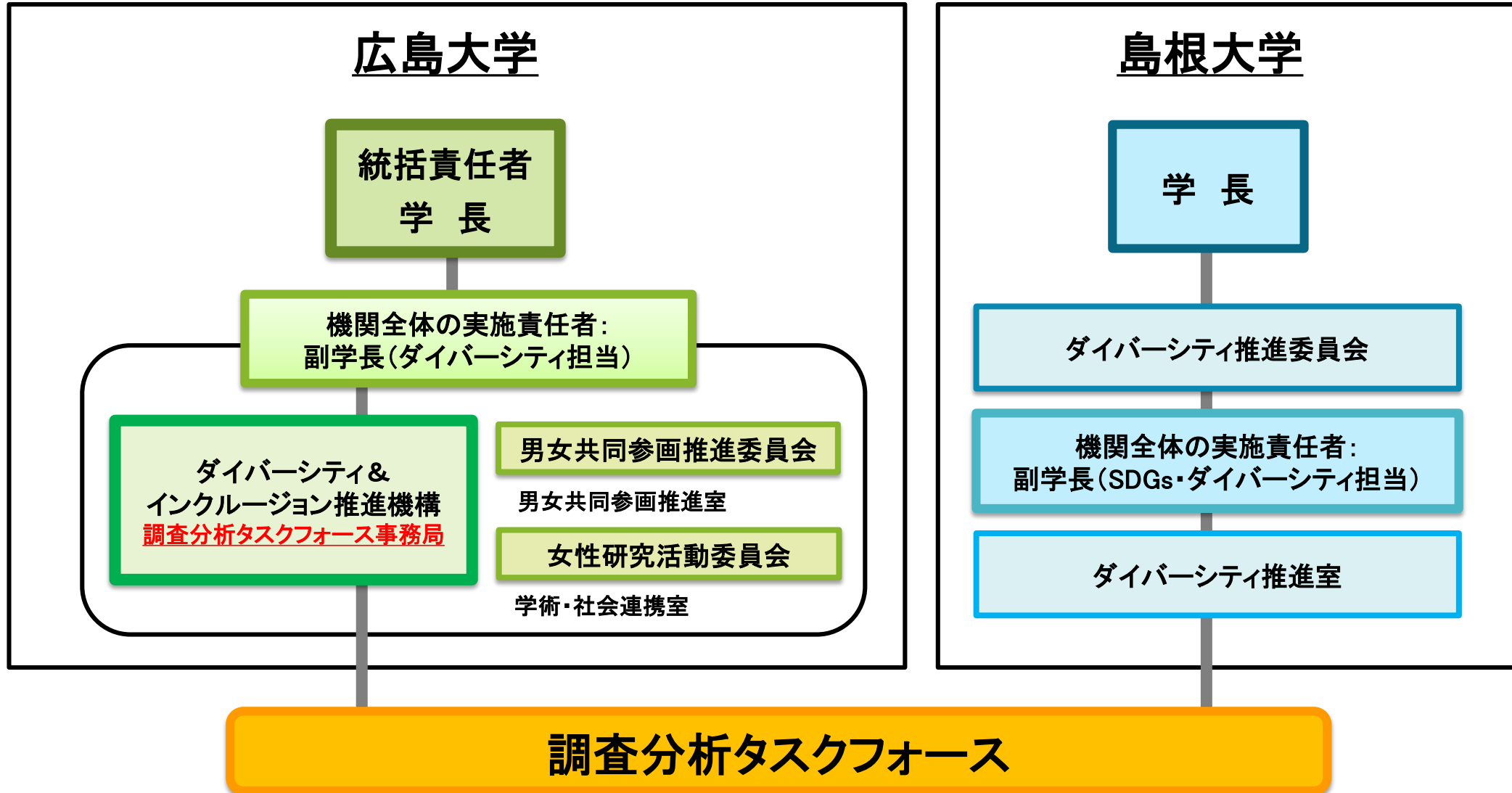
- 男女共同参画推進委員会、男女共同参画推進室等設置
- 「ダイバーシティ推進宣言」を行い、ダイバーシティ推進室を設置
- ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）等による積極展開
- 第3期中期目標・計画の目標「女性教員比率22%以上」を達成

## 2. 目的



海外の大学及び研究機関における優れた取組について、多様性 (Diversity) , 公正さ (Equity) , 包摂性 (Inclusion) 重視の研究環境づくりの現状と課題を調査分析し、「地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための提言書」の策定とそれを実践につなげることを目指す。

# 3. 実施体制



# 4. 調査項目



重点調査項目 情報収集の視点	1. 公募方法や雇用条件にどのような工夫がなされているのか(多様性)	2. 女性研究者の採用や昇進の際にどのように公正さを重視して評価が行われているか(公正さ)	3. 女性研究者にどのようなメンタリングやネットワークづくりの支援が行われているか(包摂性)
海外の優れた取組に対する情報収集の視点	家族との同居の希望やライフイベントへの対応のために、デュアルキャリア支援、柔軟な雇用時間、パートナー帯同雇用などの取組はどうか実施され、効果が上がっているか	ライフイベントによって生じる研究活動実績(論文本数等)へのマイナスの影響を減じるため、どのような支援が行われ、人事評価ではどのように考慮されているか	男性研究者が多数を占める中で、女性研究者のキャリア形成やリーダーシップ育成のために、誰がどのようなタイミングでどのような支援を行っているか
a) 地域との連携	デュアルキャリア支援や柔軟な雇用時間を採用する際に、地域の自治体やメディアはどう協力しているか、大学や研究機関、民間企業の連携による人材プールはあるか	ライフイベントによって生じる研究活動へのマイナスの影響を減じるために自治体の支援があるか、公正な評価を行うことに対して、大学や研究機関間で連携しているか	女性研究者に対するメンタリングやネットワークづくりによる支援の効果的実施のため、自治体や大学、研究機関間で連携しているか、メディアはどう協力しているか
b) 無意識の偏見への対応	デュアルキャリア支援や柔軟な雇用時間を採用する際に無意識の偏見は、誰から、どのような形で生じたか、また、それに対して誰がどのように対応し、成果はあったか	女性研究者の採用や昇進に当たって公正な評価を行う際に、無意識の偏見は、誰から、どのような形で生じたか、またそれに対して誰がどのように対応し、成果はあったか	女性研究者を孤立化から防ぐための支援を行う際に、無意識の偏見は、誰から、どのような形で生じたか、またそれに対して誰がどのように対応し、成果はあったか
c) DXの活用方法	女性研究者の公募方法や雇用条件に対する工夫をする中で、例えば、デュアルキャリア支援、柔軟な雇用制度、人材プールを実施する際にICTをどう活用したか	女性研究者の採用や昇進に当たって公正な評価を行う際に、どのタイミングで、どのようなツールでICTを活用したか、女性研究者には何かインプットが求められるか	女性研究者を孤立化から防ぐための支援を行う際に、誰がどのタイミングで、どのようなツールでICTを活用したか、女性研究者側の自律性を高める方策はとられたか

# 5. 地方大学とは

- ・ 定義＝地理的に、首都圏・大都市圏以外の地域に位置する大学
- ・ 理工系女性研究者の増加を目指す際の地方大学に対するSWOT分析

## 強み (Strength)

- ・ 地域密着型(企業や自治体等)でインターンシップの機会等が提供できる
- ・ 地域の特色を生かした分野での研究を強みとして、興味のある女性研究者を惹きつけやすい
- ・ 教職員・学生間の関係が比較的密である
- ・ 安全で安心な生活環境がある
- ・ 地域の視点から日本全体の動向を俯瞰できる

## 弱み (Weakness)

- ・ 国際的な知名度が低く、影響力が弱い
- ・ 予算規模が小さく、研究資金が限られる
- ・ 中央政府や大企業・研究機関から地理的に遠い
- ・ 最新設備や研究インフラの整備が十分でない
- ・ ジェンダー平等への意識が希薄である可能性大
- ・ 国際会議・芸術文化等の施設やイベントが限定的
- ・ 首都圏での会議参加に時間とお金がかかる

## 機会 (Opportunities)

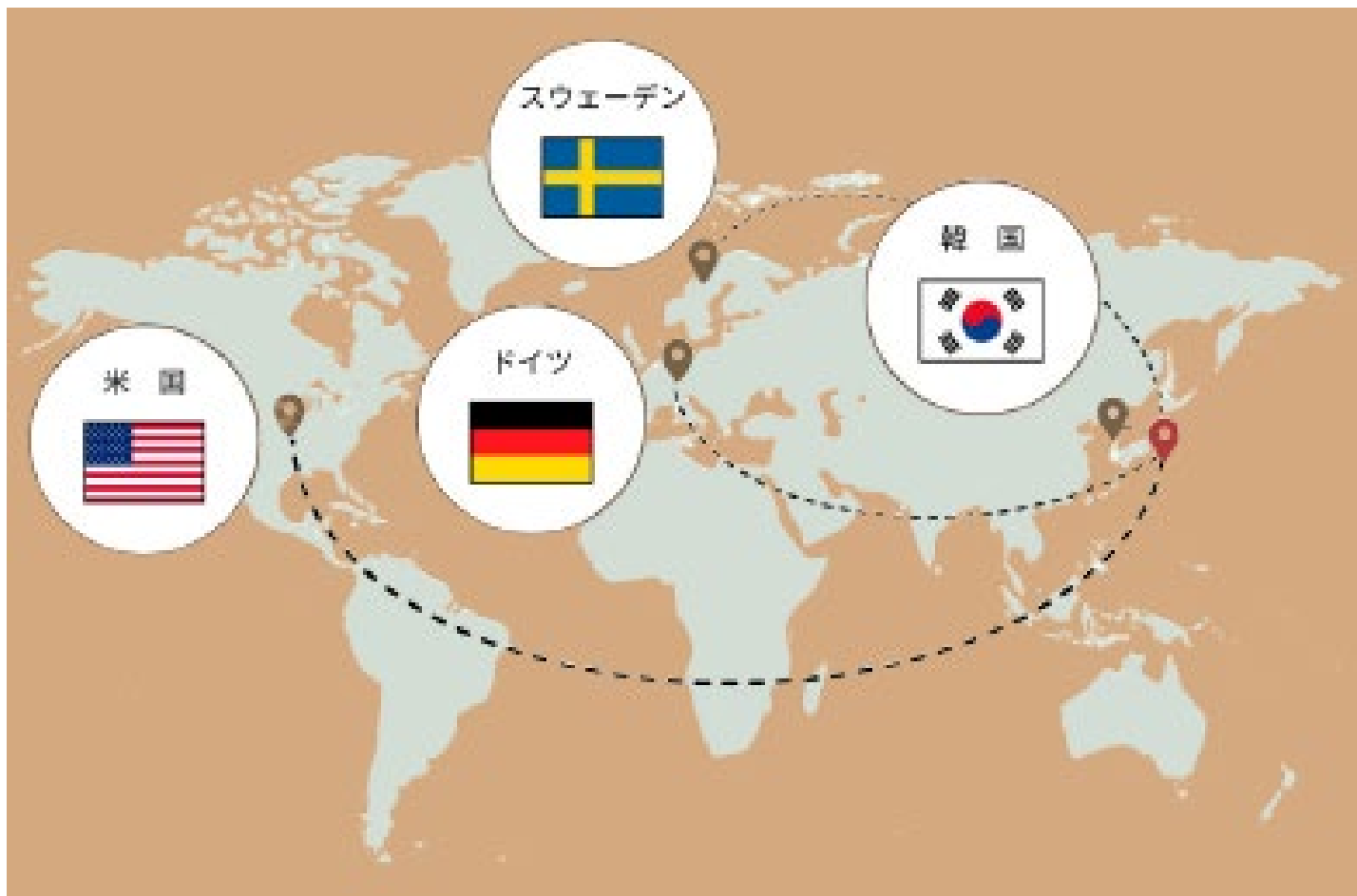
- ・ 政府や自治体による女性研究者支援策の活用
- ・ ICTやリモートワークの活用
- ・ 地域の課題(過疎化、高齢化、環境問題など)を解決する研究が注目される
- ・ 高校・中学校でのSTEM教育やロールモデル紹介による機運の活用

## 脅威 (Threats)

- ・ 若手研究者や優秀な学生が生活や研究環境の利便性を求めて地方から流出
- ・ 人口減少と少子化
- ・ 性別役割分担意識が強く、女性研究者が家庭責任との両立に苦勞する
- ・ 都市部の大学や企業、研究機関との厳しい競争

# 6. 調査対象国

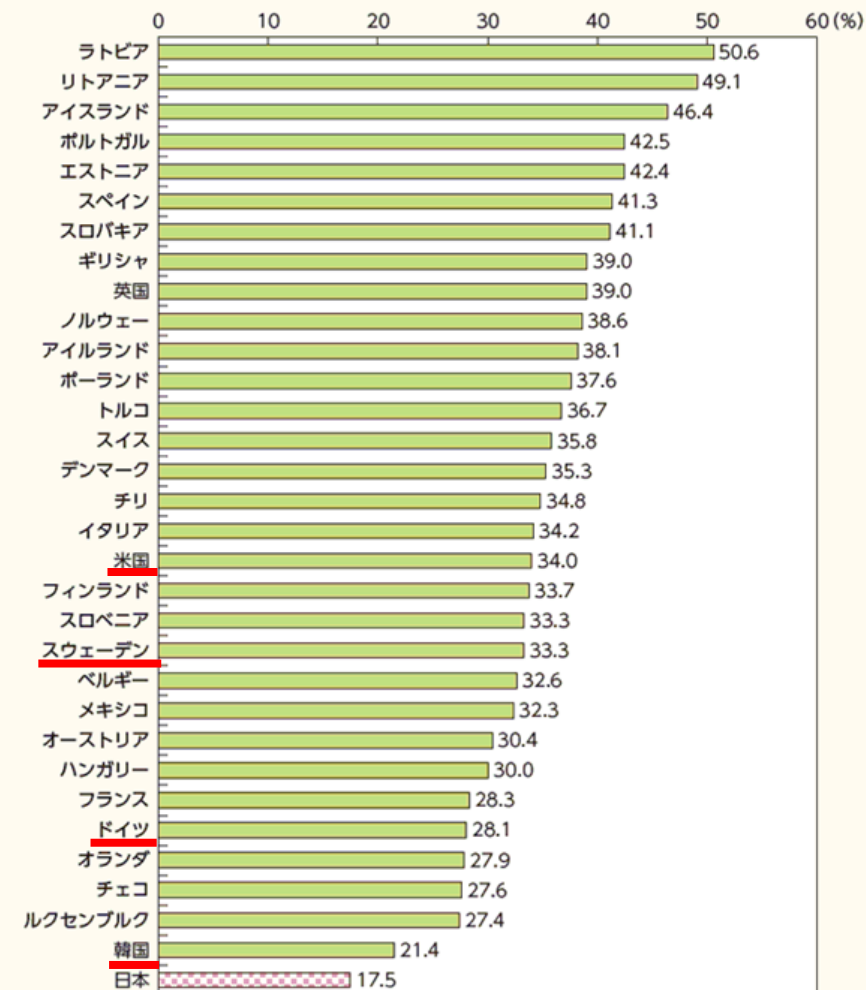
米国、スウェーデン、ドイツ、韓国の4か国を選定



## 研究者に占める女性の割合の国際比較

4-5図 研究者に占める女性の割合 (国際比較)

○日本の研究者に占める女性割合は17.5%で、OECD諸国の中で群を抜いて低い。  
○ラトビア、リトアニアでは、女性の研究者割合が50%前後である。



# 7. 調査分析の手順

## ステップ1: 事前調査分析

- 1) 両大学の取組レビュー
- 2) 対象国に関する事前情報収集
  - ・大学制度、文化
  - ・社会背景、女性研究者支援関連施策の変遷と概要、統計データ
  - ・地方大学の定義を検討
- 3) 第1回海外調査準備
  - ・対象大学との調整
  - ・質問票の作成
- 4) 国内外論文等レビュー
- 5) 事前調査分析結果の取纏め

## ステップ2: 第1回海外調査

- 1) 米国調査 (東海岸)
  - ・2024.1/5～26  
バージニアコモンウェルス大学
  - ・2024.3/6～10  
ジョージア州立大学
- 2) 米国調査 (西海岸)
  - ・2024.2/11～25  
アリゾナ州立大学、テキサス大学ダラス校
- 3) スウェーデン
  - ・2024.2/2～16  
リンシェーピン大学、チャルマース工科大学、ヨーテポリ大学、ルンド大学

## ステップ3: 第1次まとめ

- 1) 調査データ整理・分析
- 2) 情報共有フォーラム (広島大学)
  - ・2024.3/13 参加者：約50名
  - ・基調講演 (アリゾナ州立大学ゴン教授、ボーズマン名誉教授)
  - ・ディスカッションセッション「海外の取組に学ぶ」
- 3) 情報共有フォーラム (島根大学)
  - ・2024.3/19 参加者：約60名
  - ・視察報告とパネルディスカッション「地方大学における女性研究者支援の現状と課題」

## ステップ4: 第2回海外調査

- 1) 韓国調査
  - ・2024.6/14～26  
全北大学校、慶北大学校、釜慶大学  
釜山大学、朝鮮大学校、他
- 2) ドイツ調査
  - ・2024.8/19～9/19  
カールスルーエ工科大学、フライブルグ大学、他
  - ・2024.11/26～30  
ハンブルク大学、カイザースラウテルン・ランダウ大学
- 3) 米国調査
  - ・2024.9/29～10/16  
ネブラスカ州立大学リンカーン校
  - ・2024.4/13～17  
ミシガン州立大学、オークランド州立大学、他

## ステップ5: 調査結果取り纏め、提言書作成、フォーラム並びに総括シンポジウム開催

- 1) 海外調査結果取り纏め、提言書作成
- 2) フォーラム (情報共有フォーラム) ・2024.12.16 ・参加者：約50名
  - ・基調講演 (筑波大学名誉教授 吉武博通) と4事業概要報告と評価についての報告、若手評価者から見た評価、全体討論
- 3) 総括シンポジウム (本日)
- 4) 情報共有フォーラム (島根大学) ・2024.3.17予定